

現代社会学部公開講座

「京都は美しいか？」

～日本社会の景観と「社会的質」を考える～

京都の景観では、京都タワー、京都ホテル、京都駅など大規模開発や町屋のような特徴ある町並みの景観が大きな論争の的になってきました。こうした京都の象徴的な景観はもちろんですが、京都の日常的な景観（アレックス・カー氏によれば「鬼」に対する「犬」）も、注目されないがゆえに、いっそう劣化しつつあるのではないのでしょうか。

欧州の美しい景観やインテリアの質、さらにはサービスの質と日本社会のそれとを対比してみると、景観はそのまま「社会の質」を表しているように思えます。

京都はほんとうに美しいのでしょうか？

21世紀社会を見据えて、京都の景観のあり方を、多角的な「社会の質」から第一線の論客が問い直します。

公開講座プログラム

開催日時 2003年12月13日（土）13：30～16：30

場所 京都女子大学J校舎525教室

講演 宗田 好史（京都府立大学助教授）
「カルチュラルランドスケープの視点から」
佐々木葉二（京都造形芸術大学教授）
「町並みの個性と京都再生」

パネル討論 パネリスト

宗田 好史（京都府立大学助教授）
佐々木葉二（京都造形芸術大学教授）
南 進一郎（京町屋再生工房代表・染色デザイナー）
槇村 久子（京都女子大学教授）

コーディネーター

飯田 哲也（京都女子大学専任講師）

討論と質疑